

新しい日常の 新しい観光 (5)

新型コロナウイルス禍は仕事や学習のスタイルにも大きな変化をもたらした。仕事面ではテレワークの導入が進み、学習面では学校や学習塾でリモート型の講義を導入せざるを得なくなった。この状況は「働き方」や「学び方」を変え、ひいては「休み方」にも変革をもたらすと考える。

当社が実施したアンケート調査（2019年10月実施）によると、コロナ前までは、十分に旅行（国内日帰り）ができない理由として「同行者と予定を合わせられない」が96%を占めた。これは、これまで国が率先して行ってきた働き方や休み方の改革が、実は十分に進んでいなかったことを物語る。しかし、リモートにより働く場所、学ぶ場所の自由度が高まったことで、こうした状況が大きく変わる可能性が出てきた。

単に休みやすくなるだけではなく、多様な休み方への注目が高まっている。その代表的なスタイルが、余暇と仕事を組み合わせる「ワーケーション」と、出張の前後に余暇を組み込む「プレジャー」だ。国土交通省観光庁も新しい旅行スタイルとして、この2つ

テレワークで休み方も変化

を21年度に推進することとした。レジャーより先に回復が見込まれるビジネスの動きに対応し、ワーケーションやプレジャーを取り込むことは、コロナ禍で打撃を受けた観光地にもメリットがある。

実際、地域としてワーケーションを導入する動きが加速しており、19年11月に発足した推進組織「ワーケーション自治体協議会」の会員自治体の数は21年1月21日時点で、166（1道20県145市町村）まで増えた。

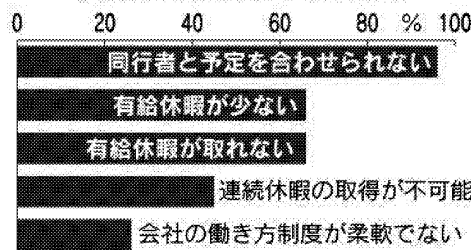
具体的な取り組みも進んでおり、和歌山県白浜町では三菱地所がワーケーション用オフィスを整備するとともに、首都圏に所有するビルのテナント企業に利用を促すなど積極的に誘客をしている。

近年、リモートでの仕事に限らず、組織力やコミュニケーションの向上を目的とした研修をする場所としてリゾート地を選ぶケースも増えている。これも一つのワーケーションのスタイルと言える。

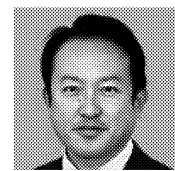
遊びや休養を目的とした従来の観光の在り方と、仕事もこなすワーケーションやプレジャーでは、利用者が求める設備やサービスの内容も変わる。各地でそうしたことがしやすいスペースの整備や誘客のための資金的な援助などのインセンティブを付与することで、ワーケーションなどがさらに普及し、観光地の復興に寄与していくものと思われる。

十分に旅行ができていない理由

（国内日帰り、2019年10月調査）



（出所）三菱UFJリサーチ&コンサルティング「働き方・休み方改革の観光への影響に関するアンケート」



うちだ・かつや 建設コンサルタントを経て現職。国内各地の観光政策に関する調査・コンサルティングに従事。特に訪日外国人の受け入れ環境整備やMICE政策で実績。愛知淑徳大学非常勤講師。